



畑仕事に便利な農具 快適で楽しい作業にするために

農具はかつての「村の鍛冶屋さん」が、農作業の用途や土質に適した形に作り上げた道具です。そのため地域によって形状がさまざま。そろえておきたい代表的な農具を紹介しましょう。

「土起こし作業」(図1)

荒れた畑は土が固く締まり、草の根がはびこっています。このような畑を起すには、

備中鍬(くわ)

図1 土起こし作業



わ)か唐鍬(くわ)を使います。備中鍬は3、4本の爪に分かれ、粘土質の畑でも土離れの良い刃型で、芋の掘り起しにも重宝します。唐鍬は1枚の細身で肉厚の刃で、頑丈なので荒起こしに向きます。

スコップは土を運ぶ、穴を掘る、堆肥・肥料を土と混ぜるなどに使い、先のとがった剣先スコップは穴掘り作業に、先が平らかな角スコップは運ぶ、混ぜる作業に適しています。

「畝立て作業」(図2)

平鍬(くわ)は1枚の刃が付き、耕す、整地をする、溝を掘る、畝を立てる、土寄せするなどほとんどの作業がこれ1本です。

きます。平鍬の背側や側面を使って、整地作業もできます。長さや重さが体や体力などに合った物を選びましょう。農具を一つ選ぶとすれば、万能の平鍬です。また、効率良く整地作業をするには、熊手のようなレーキを使います。土中の雑草の根なども除去できます。最後に、畝をきれいに仕上げるには、板切れ(端材)を使い、表面をならします。

「除草、土寄せ作業」(図3)

草削りには、

片手鍬(くわ)、ホーとも呼ばれる半月形や三角形の軽量の鍬があり、柄が長く立ち姿勢で作業ができる三角鍬(くわ)は、土寄せ、溝切りにも使えます。

図3 除草、土寄せ作業



草刈りには平鎌を使います。伸びてきた草を片手でつかみ、鎌先を地際から手前に引いて切断します。のこぎり鎌は、堅い草を刈るのに向いています。

図2 畝立て作業



JAGグリーン 津店が 鍬の使い方を 教えます!



JAGグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一

《腕と腰に負担を掛けないコツ》

① 鍬を使う前に刃がしっかりと固定されているか確認します。ガタつきがあると作業効率が低下したり、うまく力が伝わらないといった影響が出ます。

② 鍬の持ち方と構え方は、膝は中腰になるようにリラックスして立ちましょう。柄の先を左手で握り、拳一つ分あけて右手で柄を軽く握ります。視線は鍬の刃先を見るようにしてください。

③ 土に鍬を入れる際は、鍬を力まかせで土に叩きつけるのではなく、刃の重さを使いながら引くように土を削る感覚で耕します。刃先が体から遠くならないように注意し、後退しながら作業を進めます。

この3点を注意すれば、腕と腰に負担をあたえることが少なくなります。

《鍬の簡単お手入れ》

使用後は水洗いで汚れを落として水分をふき取り、刃を布で包み冷暗所で保管することが長持ちする秘訣です。